

# 「病院の言葉」を分かりやすくする提案

## 国立国語研究所

### 患者に言葉が伝わらない原因

#### ①患者に言葉が知られていない

##### 事例1: 病理

「手術での摘出臓器を病理検査して詳しく調べる」ことの説明の際に病理の意味が分からなかったようだ。病理という言葉は一般に知られていない。顕微鏡で細胞の種類や性質を調べる検査について分かりやすく説明する。

#### ②患者の理解が不確か

##### 事例2: 炎症

「炎症が起こっている」という言葉は確かに便利な言葉で、多くの患者はどこまで理解しているかは別として、何となく分かった気にさせる言葉である。しかし、...

#### ③患者に理解を妨げる心理的負担がある

##### 事例3: 腫瘍(しゅよう)

腫瘍＝がん、との思い込みがあり、患者は非常に落ち込んでしまった。

# 治験

## 類型B-(2): もう一步踏み込んで明確に説明する

### こんな誤解がある

- 1.この言葉を初めて見聞きする人は、その人に合っているかどうか試験的に治療してみることと誤解したり(16.0%),「チケン」と耳で聞いても、漢字が思い浮かばなかったりする。
- 2.「治験(ちけん)」は国語辞典には、この言葉の古い意味である「治療のききめ」などと書かれている場合が多く、現在病院で使われている「治験」とは違う意味に受け取ってしまう危険性がある。
- 3.薬を無料で投与してもらえるものだと誤解する人や(14.2%),効果や毒性も分からない薬物を投与する人体実験のようなものだと誤解する人も(9.3%)いる。

# 治験

## 類型B: もう一步踏み込んで明確に説明する

まずこれだけは

新薬の開発のための人での試験

少し詳しく

新しい薬を開発するために、人で効果や安全性を調べる試験のことです。動物実験などで効果や安全性が確かめられたものについて、人での試験に進みます。

時間をかけてじっくりと

新しい薬を開発するために、人での治療の効果や安全性を調べる試験のことです。製薬会社が開発する新しい薬は、厚生労働省の承認が必要です。この承認を受けるために行われるのが『治験(ちけん)』です。動物実験などで効果や安全性が確かめられたものについて、人での試験に進みます。『治験』は、『治療の試験』という意味です。

# 治験

## 類型B: もう一步踏み込んで明確に説明する

### 言葉遣いのポイント

1. 認知率(68.6%), 理解率(63.0%)ともにあまり高くない。患者に説明するときには, その意味をはっきりと伝えたい。
2. この言葉を使う場合は, 「治験」と漢字に書き, 「治療の試験」の意味であることを伝えた上で, 開発中の新薬の試験であることをきちんと説明したい。

### ここに注意

治験(ちけん)に参加するかどうかを決めるのはあくまで患者であり, 十分に説明を尽くした上で協力をしてもらうことが必要である。治療法の選択肢の一つとして治験を示す場合も, まずはあくまで治療の試験であることを理解してもらう必要がある。

## 関連語 臨床試験 (類型B)

### [説明]

新しい薬や治療法などの有効性や安全性を調べるために、人間を対象として行われる試験研究のことです。この臨床試験のうち、新薬の開発を目的として行われるものを『治験(ちけん)』と言います。

### [注意点]

「臨床試験」は、比較的知られている言葉なので(認知率92.0%, 理解率85.4%), 上記の説明のように「治験」を説明する際に持ち出すのもよい。